

第2章



アクティビティ集～小学生編～

Q&A



Q1
この資料に載っている「中心となる活動」のみを、実施すればいいのですか？

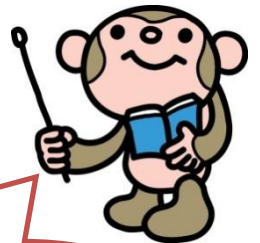
Q2
「ふりかえり」ってどんなことをするの？

Q3
どんな言葉かけをしたらよいか悩むわ。



A1

この資料には、中心となる活動としてのアクティビティ（学習展開計画内の一つ一つの活動をアクティビティと呼びます）を載せています。それぞれねらいが違いますので、対象や内容にあったものを選んでください。その際、アイスブレーキング（導入）⇒中心となる活動（展開）⇒ふりかえり（まとめ）という流れで学習展開計画を作成してください。この3つの構成にすることで、学習効果が高まります。中心となる活動だけを単発で行うことは避けましょう。



A2

アクティビティの中で感じたことを確認したり、共有したりすることで自分とは違った価値観に触れることができます。そのことで、子ども自身の人権感覚を磨いたり、時には、子ども同士が互いの人権感覚を磨き合ったりすることも期待できます。単なる感想ではない、「ふりかえり」を十分に行いましょう。また、アクティビティごとにふりかえりをし、最後に全体（アイスブレーキング～中心となる活動）のふりかえりをするので、気づきから行動へ移すきっかけを促します。

A3

この資料のアクティビティには例となる言葉かけが載っています。例を参考にし、より効果的な人権学習になるよう、子どもたちの発達段階に応じた言葉かけに心掛けましょう。

それぞれのアクティビティが単なる楽しいだけのゲームとなったり、逆に、子どもたちの中にある先入観や偏見を助長したりするものにならないためにも、アクティビティの際の言葉かけに気を付けましょう。



色をぬってみよう！

MEMO

公民館講座や放課後
子ども教室などで

対象：(低)・(中)・(高)

時間：40分

人数：2人～

1グループ
2～5人

ねらい

自分が塗った色と周りの人が塗った色について話し合うことにより、自分の中に決めつけている色があることに気づき、違いを認めることの大切さについて考えます。

展開

1 ワークシートの絵に、色を塗ります。



2 隣の人（または、グループの人）と、色を塗った絵をお互いに見せ合い、どうしてその色を塗ったのかを話し合います。

- 例)・肌の色は、どうしてこの色にしたの？
- ・ランドセルは、どうしてこの色にしたの？
 - ・髪の毛の色は、自分の髪の色と同じだと思ったからこの色にしました。
 - ・外国の女の子かなと思ったから、この色で塗ったよ。
 - ・女の子のランドセルだから、赤にしたよ。
 - ・シャツの色は、自分の好きな色だからこの色にしたよ。

3 違っててもよい色について話し合います。

- 例)・肌の色はみんな違うよね。
- ・髪の毛の色は、黒だけじゃないよね。
 - ・赤色の好きな男の人もあるよね。
 - ・外国人の肌や髪の毛、瞳の色も、いろいろだね。

4 活動について、ふりかえりをします。

- 例)・肌の色や髪の毛の色、瞳の色もみんな同じではないことに気付いた。
今度色を塗るときには、いろいろ考えて塗りたいな。
- ・塗る色が人によって様々なように、考え方も様々なんだと気付いた。

【準備物】 ワークシート 色鉛筆等



ファシリテーターの言葉かけ例

展開1 今日は、塗り絵を用意しました。みなさん、絵に色を塗ってみましょう。周りの人を気にせずに、自分が思った色で自由に塗ってみましょう。〇〇分間、時間をとりますので始めてください。

展開2 さて、みなさん、色は塗り終わりましたか。隣の人と（または、グループの人と）絵を見せ合ってみましょう。みなさん、きれいに色が塗れていますね。これから、絵を見せ合いながら、どうしてその色を塗ったのか、お互いに聞いてみましょう。

<言葉かけ例>

- ・ランドセルは、どうしてその色で塗ったのですか。
- ・肌の色は、どうしてその色に塗ったのですか。
- ・髪の毛の色は、どうしてその色に塗ったのですか。
- ・男の子と女の子の服の色は、どうしてその色に塗ったのですか。

隣の人と（グループで）話し合ったことを発表してください。（※何人かに発表してもらう。）いろいろな理由がありますね。

（※色覚異常の児童が活動に参加していることも考えられるので、「何色」を塗ったということにこだわるのではなく、なぜその色を塗ったのかという点にポイントを絞った方がよいでしょう。）

展開3 それでは塗り絵から離れて、私たちの身の回りについて考えてみましょう。肌の色や髪の毛の色、洋服の色や持ち物の色など、人によって違っていい色と同じでなくてはならない色はありますか。隣の人と（グループで）話し合ってみましょう。

どんなことに気付いたのか、隣の人と（グループで）話し合ったことを発表してください。（※何人かに発表してもらう。）

ありがとうございました。みなさん、いろいろな気づきがありましたね。

展開4 では、最後に活動のふりかえりをしましょう。なるほどと思ったことや新しい発見はありましたか。感想を隣の人と（または、グループの人と）発表し合ひましょう。

（※全体に何人か発表してもらう）

今日は、同じ絵に色を塗ってもらい、友達が塗った色と自分が塗った色を比べてもらいました。自分の中で、決めつけている色はありませんでしたか。ちょっと前の色鉛筆やクレヨンには、肌色と呼ばれる色が1本だけ入っていました。しかし、人種・個人差・日焼けの度合いによって肌の色は異なるのに、ある決まった色を肌色と決めることはおかしいということで、肌色と呼ばれていた色はパールオレンジ（うすいオレンジ）と呼ばれるようになったのです。そして、今は肌の色だけを集めた色鉛筆やクレヨンもあるそうです。

今日の皆さんの気づきや新しい発見は、とても素晴らしいと思います。ぜひ、これからの生活に生かしていけるといいですね。

江戸しぐさから学ぼう

ねらい

「江戸しぐさ」の意味を考えたり、自分たちで新たに「しぐさ」を考えたりすることで、他者への気遣いのよさを感じ取ることができるようにするとともに、相手の立場に立って行動することの大切さに気付きます。

MEMO

放課後子ども教室などで

対象：(低)・(中)・(高)

※グループ内に高学年がいることが望ましい

時間：80分

人数：5人～

1グループ
5～6人

展開

1 ワーク1の「江戸しぐさ」について、吹き出しの中の言葉を考えます。

2 資料1をもとにした「江戸しぐさ」の説明を聞きます。

3 ワーク2のこんな教室だったら楽しいだろうと思うことを考えます。

例)

- ・みんなが仲良く過ごせる。
- ・困っている人がいたら助け合える。
- ・けんかしてもすぐに仲直りができる。

4 グループでそれぞれの考えを出し合い、「〇〇放課後子ども教室しぐさ」を考えます。

5 グループごとに発表します。

6 活動についてふりかえりをします。

ワーク1
人混みの中で、だれかの足を踏んでしまった人と踏まれてしまった人の会話を。
ア 普段の生活の中では…

すみません。

イ 江戸しぐさでは…ヒント：うかつあやまり

すみません。

ワーク2
こんな教室だったら楽しいだろうと思うことはどんなことですか。

グループで、「〇〇しぐさ」を考えよう。

しぐさ

ポイント『ほんのちょっと相手を思いやる優しさと譲り合いの心と気配り』

まとめ例

〇〇しぐさ

イラスト

せつめい

【準備物】 ワークシート B4サイズ程度の画用紙またはコピー用紙 マジック 色鉛筆

ファシリテーターの言葉かけ例

展開1 みなさんは「江戸しぐさ」を知っていますか？ワーク1を見てください。これは「江戸しぐさ」の一つです。人混みの中で足を踏んでしまった人と踏まれてしまった人の会話です。現在、皆さんが日頃の生活でこのような場面になったとき、どんな言い方をしますか？吹き出しに書いてみましょう。（何人かに発表してもらおう）それでは「江戸しぐさ」ではどんな言葉が入るでしょう。吹き出しに書いてみましょう。（何人かに発表してもらおう）踏まれた人は、謝ってもらったら「いいですよ。」と許すのが普通ですが、江戸の町では踏まれた人も、「うっかりしていた私も悪かったです。うかつでした。」と謝ったので、「うかつあやまり」といいました。ここには、相手を許す気持ちと、あなただけが悪いのではないという思いやりの気持ちが表れています。心が温まるやりとりですね。

展開2 （資料2を見せながら、以下資料1の通り）

展開3 みなさんにとって、「普段の生活で友達にしてもらって嬉しかったこと」や「こんな〇〇放課後子ども教室だったら毎回気持ちよく過ごせるな」と思うことは何ですか。ワーク2に書き出してみましょう。（何人かに発表してもらおう。）

展開4 これから、グループごとに、「〇〇しぐさ」を考えましょう。考えるポイントは『ほんのちょっと相手を思いやる優しさと譲り合いの心と気配り』です。ワーク2に書いたことをそれぞれ出し合い、グループ内で意見がまとまったら、画用紙に書き写しましょう。その時、様子が分かるイラストが描けるといいですね。終わったグループは発表の準備をしましょう。

展開5 それでは、グループごとに発表してもらいましょう。実際にどんなしぐさか、動きながら説明してもいいですよ。（発表後に）皆さん、素晴らしい「しぐさ」が考えられましたね。みんなが同じ気持ちで、思いやりに満ちた「〇〇放課後子ども教室」になるといいですね。

展開6 最後に、今日のふりかえりをしましょう。「江戸しぐさ」を知って、どんなことに気付きましたか。自分たちで「〇〇しぐさ」を考えてみて、どんな気持ちになりましたか。今後の生活で生かせることはありましたか。グループ内で、一人ずつ発表しましょう。（最後に何人かに発表してもらおう）今日の活動で気付いたことを、ぜひ今後に活かして行って、みんなが気持ちよく生活できるといいですね。

資料1

それでは、他の「江戸しぐさ」も見てみましょう。

(資料2を見せながら) これは「傘かしげ」しぐさという江戸しぐさの一つです。

雨降りのとき、狭い横丁を傘をさして通行していたら、前方からも傘をさした人が来て、すれ違うとき、お互いが傘を道路の外側にかしげ、相手にしずくがかからないようにします。こうすれば、お互い雨にかからず、トラブルをさけ、そして気持ちよくすれ違うことができます。ほんのちょっと相手を思いやる優しさで譲り合いの心と気配りがあれば、誰でもできることです。この傘かしげしぐさも他の江戸しぐさと同様、自分だけでなく相手も同じ気持ちと行動をすることが必要です。しぐさは、みんなが同じ気持ちと行動をとらなくては成立しないものが多いです。



人々であふれていた江戸の町でトラブルをさけ、互いに気持ちよく暮らすために、自然に生まれたルールや工夫、それが江戸しぐさです。

江戸しぐさができないと「野暮」とか「せいあっぺい（井の中の蛙）」と言われるばかりか、すりや悪い人にもねらわれました。逆に、この江戸しぐさができてかっこいい江戸っ子を「粋な人」といいみんなの憧れの的でした。

その他の江戸しぐさとして、「江戸しぐさ例」のものを見せながら、いくつか紹介するとよいでしょう。

※他の「江戸しぐさ例」はホームページからダウンロードしてください。

出典：NPO法人江戸しぐさ ホームページ資料「コラム 江戸しぐさ」

※「江戸しぐさ」はNPO法人江戸しぐさの登録商標です。

(登録番号 第5274382号)

※NPO法人江戸しぐさURL <http://www.edoshigusa.org>

かさ 「傘かしげ」



せまい道^{みち ほど}や歩道^{あいて}などで、すれちがう相手に傘のしずくがかからないように、相手と

反対側^{はんたいがわ}に、自分のさしている傘^{かさ}を少しかたむ^{すこ}けること。こうして通れば傘同士がぶつか

ることもなく、スムーズ^{ゆか}に行き交うことができます。

少しかたむ^{すこ}傘^{かさ}を自然^{しぜん}に傾^{かたむ}けるだけで、見知らぬ同士^{みし どうし}なのにほんの一瞬^{いっしゆん}、そこに思いやる

空気^{くうき}が生まれる。なんともイキなしくさです。

わたしのなだち

ねらい

紙芝居から、見た目によって偏見・差別が生まれることを知り、見た目のみで判断するのではなく、相手を理解することの大切さに気付きます。

MEMO

放課後子ども教室
などで

対象：低・**中**・高

時間：60分

人数：5人～

1グループ
5～6人

展開

- ワーク1の質問について記入します。
 - ・グループ内で発表し合います。
 - ・何人かに全体で発表してもらいます。※自分はどんな基準で友達を選んでいるかを確認します。
- ファシリテーターが上演する紙芝居（ツアプダーフィリオ）を見ます。
- 物語に関する質問に答えます。
 - ・口頭で自由に答えます。
- ワーク2の質問について記入します。
 - ・グループ内で発表し合います。
 - ・何人かに全体で発表してもらいます。
- 活動についてふりかえりをします。
例)
 - ・最初にこういう友達がほしいと選んだのが、紙芝居を見た後で変わった。
 - ・友達は性格で選ぼうと思った。
 - ・誰とでも仲良くすることが大切だと思った。
 - ・友達のよいところをたくさん見つけようと思った。



ワーク1	名前()
あなたはどんな友達がほしいと思いますか？ 自分の考えを3つ書いてみましょう。	
<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	
ワーク2	
私たちはみんな、どんなところが同じなのでしょうか。	
<input type="text"/>	
私たちはみんな、どんなところが違うのでしょうか。	
<input type="text"/>	
もし、ツアプダーフィリオが感じた気持ちと同じ気持ちの子どもたちがいたら、あなたならどうしますか？	
<input type="text"/>	
今日の紙芝居を見る前と今とで、自分の心の中で変わったことはありますか？それはどんなことですか？	



【準備物】 紙芝居（ダウンロード） ワークシート



ファシリテーターの言葉かけ例

展開1 みなさんには、どんな友達がありますか。はじめに、ワーク1の質問について、記入してみましょう。終わったら、グループ内で発表し合ひましょう。
(全体で数名発表してもらいます)

展開2 みなさん、これから紙芝居を上演します。上演中は、静かに見ることを約束してください。ただし、登場人物がみなさんに質問した時は、それに答えて結構です。(紙芝居は、ダウンロードしてください。)

展開3 これで、紙芝居は終わりです。それではみなさんにいくつか質問したいと思います。答えてくれる人はその場で、みんなに聞こえるように答えてください。

〈質問例〉

- ① 物語についてどんな感想をもちましたか。
- ② 他の動物たちは「ツァブダーフィリオ」に対してやさしかったですか。
- ③ 動物たちはなぜあのように行動したのでしょうか。
- ④ 他の動物たちは最後に「ツァブダーフィリオ」と友達になったのはなぜですか。彼がもっとも強かったからですか。もっともルックスが良かったからですか。彼には勇気があり、相手を責めないやさしい心をもっていたからですか。また、様々な才能を合わせ持っていたからですか。

たくさんの感想や意見、ありがとうございました。

展開4 それでは、みなさん、ワーク2を見てください。その質問についてワークシートに記入しましょう。終わったら、グループ内で発表し合ひましょう。

- ・じっくりと考えます。
- ・全体でも数名に発表してもらいます。

皆さんが書いてくれた『違い』は、人それぞれ違っていいことですか。いけないことですか。

展開5 ふりかえりをしましょう。今日の紙芝居を見る前と今とで、自分の中で変わったことはありますか。それはどんなことですか。ワークシートを見ながら考えてみましょう。グループ内で発表し合ひましょう。(数名に全体の前で発表してもらう)

もし、自分とは少し違うなと感じる人と出会ったときは、ツァブダーフィリオの話の思い出してください。みなさんにとって、とても気の合う友達になるかもしれませんね。今日は皆さんからたくさんの意見を出してもらいました。普段の生活に生かすことができるといいですね。

移動人権教室

ねらい

障害者の人権という視点で街を探検することにより、自分たちが普段何気なく生活している中に、障害者に対する様々な工夫がされていることに気付くと共に、誰もが暮らしやすい街について考えます。

MEMO

公民館講座の移動教室などで

対象：低・中・高

時間：1日

人数：2人～

1グループ
2～3人

展開

< 行きのバスの中で >

- 1 人権クイズに挑戦します。
- 2 クイズの答え合わせをしながら、障害者のための様々な工夫を理解します。
 - ・点字ブロック
 - ・点字
 - ・障害者に関するマーク
 - ・ピクトグラム
 - ・ユニバーサルデザイン

< 移動教室の見学場所で >

- 3 見学場所で、障害者のための様々な工夫を見つけます。

< 帰りのバスの中で >

- 4 見つけたものを発表し合い、気付いたことを話し合います。

例) <見つけたもの>	<気付いたこと>
・スロープ	・本当に工夫されているものがあったので、すごいなと思った。
・点字ブロック	・たくさんあるんだなと思った。
・ピクトグラムの看板	
・自動販売機(ユニバーサルデザイン)等	
- 5 活動のふりかえりをします。

例) ・耳マークのことなどを初めて知りました。障害者が困っていたら助けてあげたいです。

 - ・障害者のための様々な工夫を見つけることができました。自分の街についても調べてみたいです。

人権クイズ

01 この点字ブロックを考えたのは、どこの国の人でしょう。また、警告(注意)を表すのはA、Bどちらでしょう。

A  B 

02 ビールはどちらでしょう。

A  B 

03 このマークは、何を表すでしょう。

①  ②  ③ 

04 右のシンボルマークは何を表すでしょう。



05 左の自動販売機は、どこが、どのように工夫されているでしょう。



【準備物】 人権クイズ ワークシート 筆記用具 等



ファシリテーターの言葉かけ例

展開1 みなさん、クイズに挑戦しましょう。（「人権クイズ」を配る。）少し時間をとりますので、考えてみましょう。

展開2 それでは、1問ずつ答え合わせをしていきましょう。

では、第1問からです。点字ブロックに関する問題ですね。点字ブロックって見たことがありますか。点字ブロックは、目の不自由な人のために作られたものですが、さて、この点字ブロックは、どこの国の人と考えて作ったのでしょうか。（何人かに答えてもらい、その答えを選択肢として、全体に投げかける）答えは、日本です。1967年に岡山市の岡山県立盲学校近くの横断歩道に初めて置かれたのだそうです。地方公共団体が最初に点字ブロックを採用したのは、宇都宮市なんだそうです。

では、次に、警告（注意）を表すブロックはAとBのどちらでしょう。Aだと思う人？ Bだと思う人？ 答えは、Aです。Bの線状のブロックは誘導（目的のところに行くようにさせる）を意味するブロックで、Aの点状のブロックは警告（危ないので注意）を意味します。だから、横断歩道の前のブロックは点状になっているんですね。

（このような感じで、答え合わせをしながら解説をし、障害者に対する様々な工夫について知らせる。）

展開3 それでは、これから〇〇〇〇を見学します。この施設の中には、先程のクイズに出てきたような障害のある人たちも気持ちよく利用できる様々な工夫が、あるでしょうか。探してみましょう。見つけたときは、どこでどんな工夫がされているかよく見てきてくださいね。さて、いくつ見つけられるでしょう。

展開4 さて、障害のある人たちも気持ちよく利用できる工夫を見つけることができましたか。今から一人ずつ、「どこでどんなものを見つけたか」を教えてください。できれば前の人が見つけたものと違うものを発表してもらいたいのですが、前の子の発表と同じものでもいいですよ。（全員の発表が終わったら）みなさん、たくさん見つけることができましたね。

では、今のみなさんの発表を聞いて、気が付いたことはありますか。隣の人と話し合ってみましょう。どんなことを話し合ったか発表してくれる人はいますか。（何人かに発表してもらおう）ありがとうございます。いろいろなことに気が付きましたね。

展開5 では、最後に活動のふりかえりをしましょう。今日は、クイズを行ったり、障害のある人たちも気持ちよく利用できる工夫を見つけたりしました。これらの活動をとおして新しい発見やなるほどと思ったことはありますか。隣の人と話し合ってみましょう。（何人かに発表してもらおう）

さて、みなさんの家の周りにはどのような施設はどうでしょう。スーパーや図書館、公民館などはどうでしょう。ぜひ、調べてみてください。そして、どうしてそのような工夫がされているのか考えてみましょう。

今日のみなさんの発見や気付きは、とても素晴らしいです。それを今後の生活に生かしてください。

人権クイズ答え

Q1 日本・A **Q2** B

Q3 ①障害者のための国際シンボルマーク ②耳マーク ③ほじょ犬マーク

Q4 車椅子対応エレベーター

- Q5**
- ・お金が入れやすいようになっている。
 - ・小さい子どもや車椅子に乗った人でも、ボタンが押しやすいように低い位置にボタンが付いている。
 - ・買ったものが取り出しやすいようになっている。 等



Q1 **点字ブロック** 日本で考案されたもので、1967年に岡山市の岡山県立盲学校近くの横断歩道に初めて置かれました。地方公共団体に最初に点字ブロックを採用したのは宇都宮市です。2001年9月にブロックの突起（「デコポコ」のこと）の形や大きさ及び配列（並び方）についての規格がつけられました。

A：点状ブロック（警告ブロック） B：線状ブロック（誘導ブロック）

Q2 **点字** 飲み口に点字で「お酒」と打たれています。形が同じでも点字が打たれることにより、視覚に障害のある方がアルコールの入っていない他の飲み物と区別する手がかりにすることができます。また、子どもが間違えて飲むことの防止策にもなります。

Q3 ① **障害者のための国際シンボルマーク** 障害者が利用できる建物、施設であることを明確に表すための世界共通のシンボルマークです。

マークの使用については国際リハビリテーション協会の「使用指針」により定められています。

駐車場などでこのマークを見かけた場合には、障害者の利用への配慮に、理解や協力をお願いします。

※このマークは「すべての障害者を対象」としたもので、特に車椅子を利用する障害者に限定して使用されるものではありません。

② **耳マーク** このマークは、耳が不自由であることを知らせるものです。

このマークのブローチやペンダント、バッジを身に付けている方が、銀行や病院の呼び出しに気付かないでいることがあります。お隣にいたら、「呼ばれていますよ」等の知らせ方を工夫して伝えてください。

③ **ほじょ犬マーク** 身体障害者補助犬同伴の啓発のためのマークです。

身体障害者補助犬とは、盲導犬、介助犬、聴導犬のことを言います。「身体障害者補助犬法」が施行され、現在では公共の施設や交通機関はもちろん、デパートやスーパー、ホテル、レストランなどの民間施設でも身体障害者補助犬が同伴できるようになりました。補助犬はペットではありません。体の不自由な方の、体の一部となって働いています。社会のマナーもきちんと訓練されているし、衛生面でもきちんと管理されています。

お店の入口などでこのマークを見かけたり、補助犬を連れている方を見かけた場合は、気が散るようなことをすると、補助犬が仕事に集中できなくなり、使用者も困ってしまうため、つぎの点に注意しましょう。

- ・食べ物や水を勝手に与えない。
- ・可愛いからといって見つめたり、触ったり、話しかけたりしない。

Q4 このマークは、ピクトグラムと呼ばれるもので、車椅子に対応したエレベーターを表しています。ピクトグラムとは、一般に「絵文字」「絵単語」などと呼ばれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号（サイン）の一つです。ピクトグラムで表すことにより、どの国から来た人にも、どんな言葉で話す人にも、情報を伝えることができます。「トイレ」や「非常口」を表すピクトグラムは有名です。

Q5 この自動販売機は、ユニバーサルデザインされたものです。ユニバーサルデザインとは、「全ての人のためのデザイン」を意味します。年齢、性別、身体的状況、国籍、言語、知識、経験などの違いに関係なく、最初から全ての人を使いやすい製品や環境などをデザインすることをいいます。

バリアフリー（障害者や高齢者などの特定の人々の障壁をなくすこと）から、ユニバーサルデザイン（はじめから全ての人がいやすいようにデザインすること）の考えが広まっています。

宇宙人との交信

MEMO

公民館講座などで

対象：低・中・**高**

時間：40分

人数：10人～

1グループ
5～6人

ねらい

人がもつ思い込みがどのように差別を生み出すかについて考え、物事を多面的に見ることの大切さに気付きます。

展開

- 1 ワークシートの設定を基に、宇宙人に対して地球に住む「人間」の説明文を考え、ワークシートに記入します。

【設定】

20××年、人類の科学技術が発達し、銀河系のはるか遠く離れた宇宙人との交信に成功しました。しかし、送れるのは音声のみで、映像は送ることができません。「地球に住む人間とはどのような生物なのか？」という質問に対して、人間をどのように説明したらよいでしょうか。

- 2 ワークシートに記入した説明文をグループで発表し合い、グループとして説明文を考え、模造紙等を書きます。
- 3 グループの説明文を全体に発表します。
- 4 他のグループの発表を聞いて、感じたことや気付いたことをグループで話し合います。
例)・「二本の足で歩く」という説明は、車椅子に乗っている人などだろうか。
(※健常者をイメージした外見的なこと)
・「目で見て、耳で聞く」という説明は、目や耳に障害がある人だろうか。
(※健常者をイメージした身体の機能的なこと)
・性的なこと(男と女) など
- 5 グループで出た意見を発表し合います。
- 6 活動について、ふりかえりをします。

【準備物】 ワークシート 模造紙等マジック



ファシリテーターの言葉かけ例

展開1 今日は、私たち自身のことについて、つまり人間（地球人）について考えていきたいと思います。ワークシートを見てください。

（ファシリテーターが【設定】をゆっくり読み、理解できたかを確認する）

宇宙人に、人間を説明するための言葉を、まずは自分で思いつく限りワークシートに書いてみましょう。箇条書きでも構いません。

展開2 それでは、ワークシートに書いたことをグループで発表し合い、グループとしての説明文を作ってみましょう。できた説明文は、発表用の模造紙に記入してください。

展開3 それでは、グループごとに発表してもらいたいと思います。（全てのグループに発表してもらう。）

（※発表用の模造紙を黒板等に掲示する。）

展開4 他のグループの発表を聞いて、感じたことや、変だな・おかしいな、などと思ったことはありませんか。グループで話し合ってください。

（ファシリテーターは、展開5で、意見が出なかった時のためにグループでの話し合いの様子を観察し、気付いているであろうグループをチェックしておくといい。）

展開5 どんな意見が出ていたか、いくつかのグループに紹介してもらいます。

（意見が出ないときは、展開4でチェックしたグループに発表してもらう。）

展開6 この時間のふりかえりをしましょう。今日の時間で何か気が付いたことはありますか。また、これからの生活で生かすことができることはありましたか。グループ内で感想や意見を発表し合いましょう。（時間があれば何人かの人に発表してもらう。）私たちは、無意識に人物や物事を、自分勝手に決めつけたり、よく知っていると思いつい込んでしまうことがあります。そういう見方は、気付かないうちに人を傷つけ、周りの人を差別してしまうことになるかもしれません。そうならないためにも、いろいろな見方があるのだということを心に留めていることが大切です。私たちが、安心して楽しく暮らしていけるように、自分たちにできることを少しでも実践できたら素晴らしいですね。ぜひ、今日の気づきを行動につなげてみてください。

みんなの社会

MEMO

放課後子ども教室などで

対象：低・中・高

時間：60分

人数：4人～

1グループ
2～6人

ねらい

「不便さを感じている人たち」の不便さについて考えることをとおして、相手の立場を尊重し、「みんなが幸せに生活できる社会」にするために、自分ができることについて考えます。

展開

1 クイズについて考えます。

<クイズ>

マンションの5階に住んでいる子どもがいます。その子どもは外に出るために降りる時はエレベーターを5階から1階まで使います。一方、家に戻る時は、急いでいるときでも、1階から3階まではエレベーターを使い、3階から5階までは階段を使います。どうしてでしょうか。(マンションにこのようなルールはありません。)

2 旧型のエレベーターは低い位置にボタンが付いていないことが多く、不便さを感じていた人がいたこと、一方、最近のエレベーターの多くには低い位置にボタンが付き、使いやすくなっていることを確認します。

3 写真(階段、自動販売機、標識等)に写っているものに対して不便さを感じているか発表します。そして、これらの写真をもとに、毎日の生活で不便さを感じている人にはどのような人たちがいるか考えます。

例：



階段

車いす利用者
松葉杖利用者
小さい子ども
脚力の弱い人
高齢者等



自動販売機

車いす利用者
手の力の弱い人
指先に困難をもつ人
高い所に届かない人
視力の弱い人
腰の弱い人等

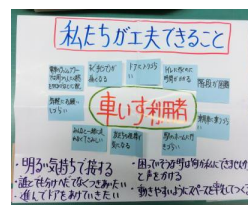


標識

小さい子ども
外国人等

4 毎日の生活の中で、不便さを感じていると思われる人がどのようなことに不便さを感じているか考え、グループごとに各自、付箋紙1枚に一つずつ記入し、模造紙にまとめます。(3の活動で挙げた対象の方の不便さについて考えます。)

例) 車いす利用者： ・高いところの物が取れない。
・できないと思われ、遊びに誘われない 等



5 みんなが幸せに生活できる社会のために、私たちが工夫できることをグループごとに模造紙にまとめ、全体で発表します。

例) ・荷物を取るお手伝い ・みんなが楽しめる遊びを考える 等

6 「今日から私ができること」について考えます。

【準備物】 模造紙 付箋紙 マジック 等



ファシリテーターの言葉かけ例

展開1 昔、次のようなクイズがありました。皆さんはこのクイズをどのように考えますか。それではクイズです。(クイズを読み、考えてもらいます。)

展開2 このクイズの答えは、実は「子どもの手が5階のボタンに届かず、3階までしか押せなかったため」というものでした。以前は、エレベーターのボタンは上の方の位置についていたため、今回のクイズの子どものように不便さを感じることはあったんですね。そのため、現在では低い位置にボタンが付いているエレベーターが多くなってきました。

展開3 これらの写真(階段、自動販売機、標識等)を見てください。このような身近にあるものに不便さを感じている人はいないでしょうか。どのような人が不便さを感じているでしょうか。グループで話し合ってみましょう。

展開4 不便さを感じている人としてどのような人を考えましたか。(いくつかのグループに発表してもらいます。)

「不便さを感じている人」にはどのような人がいたでしょうか。これから、そうした人たちが幸せに生活していくためには、私たちにどんなことができるか考えてみましょう。

まず始めに、先ほど挙げた「不便さを感じている人」の中から1つ選び、模造紙の中央に書きましょう。

次に、そうした人たちが感じる不便さについて考え、各自、付箋紙1枚に一つずつ記入しましょう。(書き終わったら)一人一人付箋紙をもとに考えを発表し合い、模造紙に付箋紙を貼り付けてください。ただし、貼り付ける際、同じような意見は一つにまとめてください。

展開5 それでは、これらの不便さのある社会から「みんなが幸せに生活できる社会」にするために「私たちができること」を、模造紙の余白にまとめていきましょう。

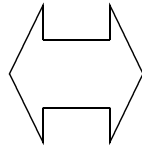
(まとめが終わったら)グループごとに発表していきましょう。

展開6 発表を聞いてどのような感想をもちましたか。今回の活動をとおして、みんなが幸せに生活できる社会にしていくために「今日から私ができること」にはどのようなことがあるか、考えてみましょう。

相手の立場を考えながら、今日から私にできることを実践し、みんなが幸せに生活できる『みんなの社会』を築いていけると素晴らしいですね。

◆展開2の補助資料◆

上の位置にのみボタンのあるエレベーター



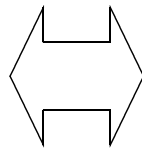
上と下の位置にボタンのあるエレベーター

◆展開3の補助資料◆

I (例：足腰の弱い人等に優しい工夫)



階段

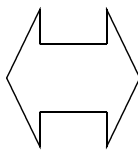


スロープ

II (例：車椅子利用者等に優しい工夫)



自動販売機

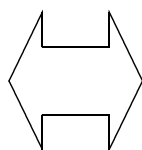


ユニバーサルデザインの自動販売機

III (例：小さい子どもや外国人に優しい工夫)



漢字の標識



日本語、英語の標識



ひらがなの標識